

家計調査の結果を見る際のポイント No.9

うるう年の2月及び3月における前月との比較

1. 家計調査の季節調整値

家計調査(二人以上の世帯)で公表している1世帯当たり平均の消費支出額は、12か月を周期とする季節的な変動の影響を受けています。家計調査ではこの影響を取り除くため、移動平均を用いた季節調整法により消費支出額の調整を行い、主要項目の季節調整値として、基準年を100とした指数及び対前月変化率を毎月公表しています。

2. うるう年の2月の消費支出の前月比はおよそ2.0ポイント程度かさ上げ

家計調査で用いている季節調整法^{注1)}ではうるう年調整を行っていません。そのため、「家計調査の結果を見る際のポイント No.8」において示した簡便な方法により、うるう年の2月の消費支出額を調整して季節調整を行った上で、消費支出全体をみると、平成20年2月の対前月実質変化率は4.9%の低下となり、公表値の方が2.0ポイント高くなっています。一方、20年3月は0.3%の低下となり、公表値の方が1.9ポイント低くなっています。同様に消費支出(除く住居等)^{注2)}では、平成20年2月は公表値の方が1.4ポイント高く、3月は1.8ポイント低くなっています(表)。

項目	実質金額指数(平成17年=100)			対前月実質変化率(%)					
	平成20年2月			20年2月			20年3月		
	公表値	うるう年調整	差	公表値	うるう年調整	差	公表値	うるう年調整	差
消費支出	99.2	97.2	2.0	-2.9	-4.9	2.0	-2.2	-0.3	-1.9
食料	101.8	98.5	3.3	4.3	1.2	3.1	-2.4	0.9	-3.3
住居	84.7	81.2	3.5	-14.6	-18.1	3.5	-6.1	-2.1	-4.0
光熱・水道	104.0	103.5	0.5	4.8	4.3	0.5	-2.1	-1.6	-0.5
家具・家事用品	112.3	110.1	2.2	12.6	11.1	1.5	-12.4	-10.6	-1.8
被服及び履物	99.7	97.7	2.0	6.4	4.4	2.0	-2.6	-0.6	-2.0
保健医療	107.8	105.5	2.3	5.4	3.2	2.2	-6.3	-4.4	-1.9
交通・通信	93.3	92.1	1.2	-17.9	-18.9	1.0	-3.4	-2.2	-1.2
教育	98.4	98.3	0.1	-4.8	-4.9	0.1	-10.1	-10.0	-0.1
教養娯楽	104.5	103.1	1.4	-1.9	-3.2	1.3	0.9	2.2	-1.3
諸雑費	97.7	95.6	2.1	-11.2	-13.1	1.9	11.2	13.6	-2.4
消費支出(除く住居等)	101.9	100.1	1.8	-0.4	-1.8	1.4	-1.7	0.1	-1.8

¹⁾「住居」のほか、「自動車等購入」、「贈与金」、「仕送り金」を除いている。

(平成20年4月30日 作成)

注1) 季節調整の方法は、センサス局法(X12-ARIMAのX11デフォルト、管理限界2~3)を用いています。

注2) 消費支出(除く住居等)については、「家計調査の結果を見る際のポイントNo.4」を参照願います。